

海の安全レポート

第七管区海上保安本部
海の安全推進室
TEL093-331-6395(交通部安全対策課)

第173号 令和3年8月号



BACKNUMBER (二次元コードは右側をご利用ください。)

https://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/gyoumu/kyunan/marine_anken_report/

7月の遊泳中による海浜事故**15人**発生！

これは去年同月と比べ**約4倍**の人数です。



土用波にご用心！！

土用（立秋前の18日間）に発生する大きな波のことを古くから土用波といいます。波の発生原因の多くは日本から数千km南方の台風周辺で発生した波が日本の沿岸まで伝わってきたものです。

この期間は台風の発生も多く、古くから天気が良くても大波に注意が必要な為、土用の期間には注意する様に言われていました。

現場での風が弱くても大きな波が発生することもありますので、遥か遠くの海上で台風が発生している場合であっても海に近づく時には特に注意が必要です。

海に遊びに行くまえには事前に気象海象の情報及び利用海域の情報を入手しましょう。



7月に発生した遊泳中の海浜事故15人の内、11人がこのような台風による波や風、離岸流の影響により沖に流されて陸に戻れなくなるものでした。

離岸流は、約10mから30mほどの幅で沖に向かって発生する強い流れのことです。

一旦この流れに巻き込まれてしまうと、気が付かないうちに沖まで流されてしまい大変危険です。

離岸流は条件が合えば発生することがあります。もし離岸流によって沖に流された場合は、まず落ち着いて海岸と平行に泳いで離岸流からの脱出を試みましょう。泳ぎに自信のない人は、無理に泳がず浮いて救助を待つことも有効です。



浮いて待て！

溺れた人を見たときの対処法

◎ 自分の安全を第一に！

- ・溺れた人を助けるために、水に入るのは危険です。
まずは自分の安全を確保し、道具を使うなどして助けましょう。



◎ 周囲に助けを求めよう！

- ・溺れた人を見たときは、ひとりで助けようとするのではなく、海水浴場の監視員、ライフセーバーや周囲の人などに助けを求めましょう。

◎ 周囲に助けを呼べない場合は、118番通報！

- ・緊急通報用電話番号の118番（海上保安庁）に救助を求めましょう。

- ①どのような事故か ②事故の場所
- ③事故者の人数 ④通報者の名前と連絡先

を伝えることが重要です。落ち着いて連絡しましょう。



救助者も沖に流され帰還不能になる事故が発生しています！！

高校の部活動メンバーで海水浴場にて遊泳していたところ、その内の1名が溺れかけて沖に流されたため、友人1名が浮き輪を持って救助に向かい合流したものの、風潮流の影響でさらに沖へ流されました。

その状況を見ていた別の友人1名が浮き輪に捕まる2名を助けに向かい合流しましたが、3名ともに浮き輪に捕まったまま沖に流されてしまい、陸に帰れなくなる事故が発生しました。

高校生3名は、通報を受けた救助隊により無事救助されました。

高校生3名が浮き輪に捕まったまま救助を待っている状況



救助隊

【遊泳に関する安全情報】

詳しくは、右の二次元コードをご利用し、「ウォーターセーフティガイド(遊泳編)」をご覧ください



ウォーターセーフティガイド
(遊泳編)